

# 道徳科学習指導案

日 時 令和2年5月29日（金）公開授業Ⅱ  
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
 1年D組35名  
 会 場 1D教室  
 授業者 佐々木 淑乃

1 ユニット名 仲間との出会いを大切に  
 教材名 「やっぱり樹里は」【C（11）公正、公平、社会正義】（本時2／4時間目）

## 2 ユニットについて

### (1) 生徒観

道徳の最初の時間に、今年度から導入されたキャリアパスポートで立てた目標をもとに、道徳で学ぶ内容項目において、「どのような項目に興味があるか」「どの項目について学んでみたいか」というアンケートを行った。その回答を、内容項目ごとに分類すると【表1】のような結果であった。生徒の回答には、新たに始まった中学校生活に関連させて考えてみたい項目、また、将来の夢に関連させて考えてみたい項目、また、今の自分自身に足りないことを見つめ直すという視点で考えてみたい項目が多く挙げられた。一方で、内容項目の意味がよく分からないから学んでみたいという思いを抱いている生徒もいる。これらのことから、生徒の興味関心がある項目の学習を充実させることはもちろんだが、様々な項目において、生徒自身の考える視点を増やすことも、今年度の道徳の目的ではないかと考えた。また、道徳の学習を行う上での学習姿勢や雰囲気作りを行うことで、授業の基盤作りを行っていきたい。

1学年は入学して約2か月が経ち、中学校生活へ新たな目標を見出し、頑張ろうとする生徒が多い。その良さも生かしながら新たな集団生活を創り上げたいと思う一方で、小学生までの友人関係や考え方が徐々に浮き出ている。全員が新しいスタートを切った今こそ、これまでの自分の価値観にとらわれず、新たな考え方を広げ、様々な仲間の思いを受け入れられる生徒を育てていきたい。

内容項目	数	合計
A「自身に関する事」	1 自主・自律、自由と責任	31
	2 節度、節制	3
	3 向上心、個性の伸長	14
	4 希望と勇氣、克己と強い意志	30
	5 真理の探究、創造	7
B「主として人との関わりに関する事」	6 思いやり、感謝	44
	7 礼儀	46
	8 友情、信頼	49
	9 相互理解、寛容	8
C「主として集団や社会との関わりに関する事」	10 道徳精神、公德心	1
	11 公正、公平、社会正義	23
	12 社会参画、公共の精神	1
	13 勤労	7
	14 家族愛、家庭生活の充実	4
	15 よりよい学校生活、集団生活の充実	11
	16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	16
	17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	21
	18 国際理解、国際貢献	16
D「命や自然の尊厳に関する事」	19 生命の尊さ	42
	20 自然愛護	17
	21 感動、畏敬の念	0
	22 よりよく生きる喜び	19

【表1】

### (2) ユニット観

本ユニットは、「仲間との出会いを大切に」というテーマについて3つの内容項目で構成した。『中学校学習指導要領解説道徳編』のC〔主として集団や社会との関わりに関する事〕から、【(11) 公正、公平、社会正義】をユニットの最初に2時間連続で学習する。その次に他者を受け入れるという観点から、B〔主として人との関わりに関する事〕から、【(9) 相互理解、寛容】また、C〔主として集団や社会との関わりに関する事〕から、【(15) よりよい学校生活、集団生活の充実】についての題材を加えることで、一つのテーマについて、多面的・多角的に考え、自分自身を見つめ直し、今後の実践意欲を喚起させたい。これらの学習を通して自分が考えたことや新たに生まれた疑問などを今後の自分自身のテーマとすることをねらったユニットの構成とした。

### (3) 教科研究との関わり

#### 研究の視点1 本校のカリキュラムに即した年間計画に沿った小単元型ユニット

※研究総論との関わり：(1) 教科等固有の見方・考え方を働かせる「真正の学び」の場の設定

道徳科では、研究総論で示している「本校で育成を目指す資質・能力」を生徒に育むために、カリキュラム・マネジメントの視点から、【表2】のように、年間3回ユニットを組んで、一つのテーマを数時間に渡って考えさせていく。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列することに留意しながら、カリキュラムをデザインした。このようなユニットを通し、またそれ以外の一単位時間の授業において、道徳科で考える見方・考え方を働かせる場面を効果的に設けていく。

【表2 1学年のユニット構成】

ユニット名	各教科・領域、行事と道徳教育との関連	重点指導内容
ユニット1 仲間との出会いを大切に	HS(生活トレーニングセンター)	C(11)公正、公平、社会正義 B(9)相互理解、寛容
ユニット2 みんなで目標達成!	特別活動(文化祭)	B(6)思いやり、感謝 C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
ユニット3 先輩になる	附属小学校交流	A(3)向上心、個性の伸長、(4)希望と勇気克己と強い意志、(22)よりよく生きる喜び

本ユニットは、総合的な学習の一環として行われる7月の生活トレーニングセンターに向けて構成した。生活トレーニングセンターでは、仲間と活動する中で何か困難が生じた際に自分自身がどう行動するかが問われるようになる。そこで自分自身の弱さに素直に向き合い、よりよい行動を判断することができるよう、仲間と過ごす上で大事にしたいことを考えた状態で臨ませたい。そして、道徳科の学習とHS学習をつなげ、教科横断的に学習を進めることで、道徳科での学びをより深いものとさせたい。

### 研究の視点2 道徳的価値理解を基に考えを深める授業／学年に応じた思考ツールの活用

※研究総論との関わり：(2)主体的・対話的で深い学び等による「学びの自覚化」(3)「情報・情報技術」の活用  
導入や中心発問後の切り返す発問の吟味、一単位時間を通してグループなどによる対話で生じた考えを思考ツールを用いてメモをすることにより、生徒が多面的・多角的に考えたり自己を見つめたりする場を設定したい。このように、生徒が「見方・考え方」を働かせて考える過程で、自分自身の良さや課題に向き合い発信することで、人間の強さや弱さを共有することができる。さらに他者の考えを知ることによって新たな視点に気付かせ、それを踏まえてあるべき姿を探究させていくことが、「人間の強み」の発揮につながるものであると捉える。

### 研究の視点3 一単位時間、ユニットにおける学びの自覚化を促す振り返り

※研究総論との関わり：(2)主体的・対話的で深い学び等による学びの自覚化

道徳科における評価とは、生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。以上の理由から、一単位時間ごとの学習シートと、ユニットごとのOPPシートをファイリングし、そこから生徒の学びの様子を見取るとともに、評価のための資料として蓄積していくことで、生徒自身の学びの自覚化を図るものである。

## 3 ユニット計画

### (1) 育成を目指す資質・能力

- ① 「仲間との出会いを大切に」というテーマのもと、【公正、公平、社会正義】、【相互理解、寛容】、【よりよい学校生活、集団生活の充実】などの道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力。
- ② 自己を見つめ、他者と協働し、「仲間との出会いを大切に」というテーマについて、ユニットを通して広い視野から多面的・多角的に考える力
- ③ 「仲間との出会いを大切に」というテーマについてユニットを通して考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探究する力。

### (2) 指導目標

- ① 一単位時間で扱う内容項目を明確にし、各時間の価値理解の深化を促すとともに、ユニット全体の学習を通して、道徳的諸価値を統合させる。
- ② 価値理解を基に自己を見つめさせ、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的な思考を促す。
- ③ 自己のこれまでの生き方、これからの生き方について考えさせ、人としてよりよく生きようと探究する態度を促す。

### (3) 評価の視点

	① 道徳的諸価値について考えること	② 自己を見つめること	③ 人間としての生き方についての考えを深めること	※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
目指す生徒の姿	自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしている。	価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。	学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。	道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。

#### (4) 指導計画及び評価計画

時	「資料」【内容項目】 ○本時のテーマ ・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
1	<b>「魚の涙」【C (11) 公正, 公平, 社会正義】</b> ○「いじめはなぜ起こる？」 ・ 様々な立場の人の思いについて考えることを通して、道徳的価値について考えさせる。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、これまでの自分の言動と思いについて振り返らせる。 ◆ 望ましい行動が分かっているにもかかわらず実行できないことがあった場合、自分のどのようなところに原因があるか考えさせる。また、実行できなかった場合どうなるのかを考え、これからの自分自身の行動について考えさせる。	① 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。 ② 価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。 ③ 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。 ※ 道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。
2 本時	<b>「やっぱり樹里は」【C (11) 公正, 公平, 社会正義】</b> ○「自分ならどうする？」 ・ 「私」の行動や心情を考えることを通して、道徳的価値について考えさせる。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、これからの自分自身の行動について考えさせる。 ◆ 他者に対する自分のこれまでの接し方について振り返り、受け入れられたときとそうでない時の違いを考えさせ、これからの行動について考えさせる。	
3	<b>「私の話を聞いてね」【B (9) 相互理解, 寛容】</b> ○「自分のこと、伝えられる？」 ・ 「私」が自分を打ち明けたことについて考えることを通して、道徳的価値について考えさせる。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、受け入れることと受け入れられることについて考えさせる。 ◆ 相手の言動をどう受け入れるかについて、自分自身について発信するという視点についても考えることを通して、これからの行動につなげさせる。	
4	<b>「一粒の種」【C (15) よりよい学校生活, 集団生活の充実】</b> ○「どんな種をまこう？」 ・ 登場人物ごとに心情を捉えることを通して、道徳的価値について考えさせる。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、自分の思いをもとにどう行動していくか考えさせる。 ◆ 自分の考え方を見つめることを通して、自分の弱さにどう立ち向かっていくか考えさせる。	※上記①～③、※に加え ・ ユニットのテーマ「仲間との出会いを大切に」についての考えが変容している。 ・ 学んだことを自覚させ、さらに道徳科の評価として見取る。
事後	・ ユニット学習後、ユニット学習テーマ「仲間との出会いを大切に」における問いについての考えをまとめさせる。 ◆ ユニット学習を通して、改めて自分の気持ちについて考えたことをまとめさせる。	

#### 4 本時について

(1) 教材名 「やっぱり樹里は」(中学道徳① きみがいちばんひかるとき 光村図書)

#### (2) ねらい

不公平な場面を見過ごさず、自分の考えを述べることでできる生徒の物語を通して、公正、公平な社会を実現するために大切な行動について考えさせ、公正、公平に行動していこうとする判断力と、そういう他者を受け入れようとする心情を育てる。

#### (3) 教材のあらすじ

本教材は、先輩にも臆せず自分の考えをはっきりと伝える樹里。そんな樹里を、「もめたくない」という理由で批判的に捉えている傍観的な「私」。ある日「私」は、いつでも、どこでも、誰に対しても、公正、公平に意見できる樹里の姿を目撃する。そんな樹里を「かっこいい」と感じ、自分もそのようにありたいと思い始めた「私」。そんな「私」の変容を捉えることで、誰に対しても公正、公平であることのむずかしさと大切さについて考えることができる教材である。樹里の行動は正しいと分かっているが何もしない「私」の思いにも共感させながら、あるべき姿とそれができない、受け入れられない思いの双方向から考えることで、自分自身を見つめることにつなげさせたい。

#### (4) 授業の構想

本時は、『中学校学習指導要領解説道徳編』のC[主として集団や社会との関わりに関する事]から、【(11) 公正, 公平, 社会正義】を道徳的価値の中心に据えて展開していく。

導入では、本時に関わる日常の場面について想起させ、自分なりの考えを持たせていく。

展開では、一人ひとりに道徳的価値について考えさせるために、教材から、登場人物の行動について自分の思いを重ね合わせながら考えていく。登場人物の行動について、公正な考えのもとで行われていることを捉える一方で、分かっているにもかかわらずそのような行動が取れないことに対しても共感させながら、「公正、公平に行動していこうとする判断力と、そういう他者を受け入れようとする」という本時のねらいとする価値の大切さについて気づかせていく。

終末では、展開をもとに自分自身を振り返らせていく。これまでの自分がどのような考えのもとでどう行動していたか、また仲間の考えから何を学んだか、そしてこれからの自分の行動について考えることで、自分自身の弱さを見つめ直したり、新たな目標を見出したりするきっかけとする。

そうした考えをもとに、次時の【B（9）相互理解，寛容】に関する学習では、自分を表現すること、受け入れる仲間の大切さについて考えることにつなげたい。

（5） 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応	時間 (分)	指導上の留意点および評価の視点 ・指導上の留意点 ○※評価の視点
導入	1 本時の学習につながる日常の行動を想起させる。 ・「おかしいと思います」と言うか。言われたらどうか。	5	・ 生徒の日常生活から率直な思いを引き出す。
展開	2 資料から考える 資料を読んで「樹里」と「私」について比較しながら確認する。  なぜ「私」は「やめたほうがいい」と言ったか ・面倒だと思われてしまう・言い過ぎ・嫌われたくない。  「やっぱり樹里はかっこいい」と思ったのはなぜ？ ・正しいことをしているから。 ・勇気があるから。 ・たとえ嫌われたとしても正しいと思ったことを言っているから。 ・周りの人のことを考えているから。 ・困っている人を見過ごさないのはもちろん、いろんな立場の人のことを考えている。	15	・思考ツールを用いてメモを取らせる。  ・登場人物への思いにある自分自身の思いを問う  ① 道徳的諸価値について考えること
	3 資料から考えたことをもとに考えを深める 「やっぱり樹里はかっこいい」と言った「私」をどう思う？ ・自分もなかなか言えないから、「私」の気持ちがわかる ・「私」が悪いわけではない  自分だったらこういう時どうする？ ※4人グループで交流する ・言う→正しいと思ったことをはっきりと言えるようになりたい 困っている人を助けたい ・言いたいけど言えない→言った方がいいのは分かっているけど、やっぱり怖い ・言わない→人間関係が崩れるのは嫌だ	5  15	※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること  ② 自己を見つめること ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
終末	4 本時の学習を振り返る（自己を見つめる） 今の自分に必要なことは何だろう ・これまでの自分はどうだったか ・自分にはなかった新たな考えに気付けたか ・これからの自分はどうしていきたいか  5 仲間の振り返りを聞き、ユニットOPPシート（仲間と過ごす中で大切なこと）を記入する	10	② 自己を見つめること  ③ 人間としての生き方についての考えを深めること ・これまでのユニットの学びを振り返りながら今の考えを書かせる。

